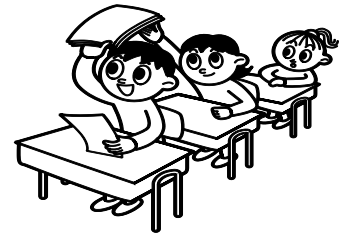




「横浜市学力・学習状況調査」の結果分析

今年度4月に横浜市一斉に、全学年で実施された「横浜市学力・学習状況調査」の結果を報告いたします。本校の子どもたちの「横浜市学力・学習状況調査」の結果（国語、算数、社会、理科、外国語）を分析し、傾向をとらえ、日頃の指導の工夫改善に努めてきました。各教科の傾向と指導の工夫改善について、お伝えいたします。

各教科の傾向と指導の工夫改善について
○よくできた点 ●努力を要する点 →改善策



【国語】

2年○問題番号12の結果から、文学的な文章の登場人物の様子や気持ちを具体的に想像できている。

- 問題番号1・10・11の結果から、文学的な文章において、登場人物の会話を基に、内容の大体をとらえることが難しい。説明的な文章においても、文章構造の大体をとらえることが難しい。
→話の大まかな内容をとらえる際に、登場人物の行動や会話に着目することで、より内容を深く理解できるようにする。また、説明的な文章においても、はじめ・中・終わりの構造を丁寧に取り扱い、文章全体の内容を深くとらえられるように指導を重ねる。

3年○問題番号8の結果から 説明的な文章の「説明されている事柄の順序」を読み取ることがおおむねできている。

- 問題番号6の結果から、「は」「を」「へ」を文章の中で正しく使うことや、問題番号18の結果から、片仮名で書く語の種類が何かをしっかりと身に付けられていない。
→普段の学習で子どもたちが文字を書くときに意識できるよう、声をかけて確認するようにしている。

4年○問題番号2、3、4の結果から、文学的な文章を読み取る際に、登場人物の様子や行動の理由を想像することがおおむねできている。

- 問題番号9、12の結果から、説明的な文章を読み取る際に、考えとその事例との関係を捉えたり、指示する語句の役割を理解したりすることが難しい。
→筆者の主張と事例との関係を結び付けられるように授業を展開したり、板書を工夫したりした。また、文章中の指示語にも着目しながら、丁寧に読み解く時間を設定した。

5年○問題番号2の結果から、叙述を基に、登場人物の行動を捉えることが概ねできている。

- 問題番号7の結果から、修飾と被修飾との関係について理解が難しい。
→文章の中で語句を一つ一つ扱うのではなく、どんな、どのようになど、人物や行動をより詳しくする言葉に着目して授業を展開した。
- 問題番号12の結果から、接続する語句の役割についての理解が難しい。
→自習学習プリントに接続語を取り入れたり、文章を読み取る際に接続語の役割を確認したりして、内容を理解できるように授業を展開した。

6年○問題番号5・6・20などから適切な漢字を使ったり、慣用句の意味を捉えたりすることができる
ことが分かる。

●問題番号14の結果から、情報を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ文章に表す
ことが難しいことが分かる。

→パンフレット作り、座右の銘、卒業文集などで書き方や表現の仕方などを学習した。また、教
科書の物語文の読解などの学習を通して、自分の考えを書く場面を増やし、友達と共有するこ
とで、さらに自分の考えを深められるように指導した。

[算数]

2年○問題番号4の結果から、計算の意味や仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすることができ
るようになってきている。

●問題番号1の結果から、1つの数をほかの数の和としてみるなど、他の数と関係付けてみるこ
とが難しい。

→1年時に学習したサクランボ計算の考え方を振り返り、繰り上がり繰り下がり等の計算問題で
丁寧な指導を重ねる。既習の学習をいかして次の課題解決に繋げるのが算数の積み重ねである
ため、より丁寧にこれまでの学習を振り返られるようにしていく。

●全体的に、学習内容を理解していても、問題文を読み取る力が弱く、問題に正しく答えられないこ
とが多い。

→様々な問題の形にふれ、場面を図に表したり、具体的な物を操作したりして、理解できるように
していく。

3年○問題番号7の結果から、100－2桁の数の繰り下がりが連続する計算や、問題8の結果から、繰り
上がりのあるたし算を正しく計算することがおおむねできており、基本的な計算の技能は身に付
いている。

●問題番号の11や12の結果から、箱の形を構成する面の形や数、辺や頂点の数などの理解が不足
していることが分かる。

→立体図形も含めて、具体的な操作を伴った活動を学習の中に取り入れ、実感を伴った理解ができ
るようにしている。

4年○問題番号11、12の結果から、空間図形において球について理解していたり、身の回りのものの形
を図形として捉えたりすることができている。

●問題番号7の結果から、3位数×1位数の筆算の計算に課題がある。

→スキルタイム等を利用し、継続的に学習に取り入れ定着を図るようにしていく。

●問題番号8の結果から、計算に関して成り立つ性質を見出しその性質を活用する力が不足してい
る。

→普段の授業から機械的に計算をこなすのではなく、図やグラフ、言葉を用いて説明し合う場を設
け、計算に関して成り立つ性質を理解できるようにする。

5年○問題番号9より、ひし形について理解していることがわかる。

●問題番号6「数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの表し方を統合的にとらえるとともに、そ
れらを日常生活に生かすことができる」では、市の平均を大きく下回っている。

→既習事項の数の仕組みから発想して数を捉えられるようにし、また、日常の生活に立ち返って考
えられる場面を設定するようにした。

●問題番号13「変化の様子を表や式で表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができる。」が
市の平均値より大きく下回っている。

→比例の学習において、図や表による数の変化を複数回考えることによって、特徴をつかめるよ
うにした。

6年○問題番号11の直方体の体積を求積する正答率は、概ね横浜市に近い正答率のものが多かった。直方体を求積するために必要な要素を正しくとらえることはできている。

- 問題番号13・14の正答率が、市の平均よりも大幅に下回っていることから、割合の領域に課題がある。

→どの単元でも普段の生活と結び付けて、学習する場面を多く設け、必要感をもてるようにしてきた。また、割合の単元に関しては、割合の問題に触れる機会を設け、復習をする際に丁寧に取り組み、理解度を高めた。

[社会]

4年○問題番号18の交番に勤める警察署の人が様々な仕事をしていることを理解している。また、売り場や工場、消防など身近な題材については、一日の流れや活動の様子といった事実を資料から読み取る力が身につけている。また、地図や写真などの資料を活用し、位置や様子を把握しようとする姿も見られる。

- 問題番号16の消防隊員の仕事の工夫を問う問題から、調べて分かった事実を理由や目的、他との関係と結び付けて考える力には課題がある。位置や場所を把握することにとどまり、その意味や生活とのつながりを説明することが十分ではない。社会を支える人々の相互関係について、全体のつながりとして捉える力をさらに伸ばしていく必要がある。

→調べ学習で得た事実を整理するだけで終わらず、「なぜそうなっているのか」「誰のために行われているのか」といった問いを設定し、理由や目的を考える活動を行った。さらに、位置や空間的な広がりについては、地図や写真をもとに「なぜこの場所なのか」「この場所が生活にどう関わっているのか」を考えられるよう、自分たちの生活と結び付けて説明する場面を意図的に設けた。あわせて、考えたことに理由を添えて説明する活動を取り入れ、言語化する力の育成を図った。

5年○問題番号5の「事件発生件数の推移に着目し調査した資料を読み取ることができる。」の結果から棒グラフによる読み取りができていることがわかる。

- 問題番号22, 23, 24の結果から、気候の特徴を関連付けて内容を考える際に、気候についての読み取りが難しい。

→日々の学習で、その土地の気候的特徴をからめて、どのような理由で、その土地に産業が根付いているか考えるように工夫した。

6年○問題番号22の「災害の種類が発生の位置や時期、防災対策などに着目し、問いを見いだしている。」の結果から、資料を適切に読み取り、問題を見いだす力がついていることがわかる。

- 全体的に正答率が市の平均を下回っていた。適切な資料を選択し、資料から必要な情報を読み取り、活用して問題を解答する力を身につけさせたい。特に、年表などの資料をもとに、時間の経過や空間的な広がりを読み取り、理解することに課題がある。

→学習問題の解決に合った資料を選択し、どのように活用すればよいか確認をしてから学習に入るように指導をした。

[理科]

4年○問題番号7の結果から、観察・実験などに関する技能を身につけることができている。

- 子どもの発言から学習問題を想定したり、実験方法を考えたり場面を想定する問題番号10・16の正答率が市の平均を大きく下回った。しかし、学習意識調査の集計結果から、意見が分かれた場合にはそれぞれの立場に立った方がよいと考えている児童は、この設問の正答割合が高くなっている。
→子どもたちが互いの考え方を話し合ったり共有したりする場面を確保し、調べたいことをはっきりさせてから解決していける単元づくり・授業展開を大切に指導してきた。

5年○問題番号20の「加熱器具を扱う際の、安全な操作について理解している。」が概ねできていたが、より安全にできるよう、実験の度に確認している。

- 問題番号8「観察、実験などに関する技能を身につけている。」において、市の平均より大きく下回っていた。
→観察・実験において問題を解決するために必要な方法を自分たちで考えたり、観察・実験を始める前に再度やり方を確認したりすることで技能を身につけられるようにした。

6年○問題番号20の結果から、粒子に関する問題の中で、道具の使い方はおおむね理解できている。

- 全体的に横浜市の平均より下回っている設問が多かった。特に設問3、4、9、13、19の正答率が20ポイントほど下回っていることから、根拠のある予想を立てたり、予想からの結果の見通しをもったりすることについて課題がある。
→実験を行う際に、やり方を確認するだけでなく、その実験を通してどのようなことを考えるのか、実験結果からどんなことが考えられるのかを意識させ学習を進めてきた。また、学習したことを、日常生活と関連づけて考える機会を設定し、知識だけで終わらないように学習を進めてきた。

[外国語]

6年○問題番号14、15の結果から、書くことの観点に関する問題は正答率が高い。特にアルファベットや簡単な語句を正しく活字体で書くことは概ねできている。

- 他教科に比べ、市の平均と近い正答率ではあるが、すべての項目で横浜市の平均より下回っている。特に設問番号18の時間割について簡単な語句の意味を捉える設問に関しては、正答率が市の平均を下回っていた。読むことの観点において簡単な語句の意味を理解していないことが分かった。
→外国語に触れながら簡単な語句の外国語表現を理解し、様々な場面で繰り返し使えるような活動設定を継続して続けていく。

この分析結果をもとに、来年度以降も指導の工夫改善に取り組んでいきます。

- ・指示されたことに取り組むのではなく、自分で選択・決定して学ぶ姿勢を高めます。
- ・自分で追究したい「問い」を見出し、自分で考えを深める学びを大切にします。
- ・自分なりの考え・思いや願いをもって、友達と交流する場面を大切にします。